



＜来週の資金需給予想とイベント予定＞

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
2/9 (月)	+ 600	▲ 2,700	▲ 2,100	国庫短期証券発行償還 (3M)	国債補充供給 + 2,100		日：経常収支 (12月) 米：ウォラーFRB理事、講演
2/10 (火)	トン	▲ 3,000	▲ 3,000	国庫短期証券発行償還 (6M)			米：小売売上高 (12月)
2/11 (水)	建国記念の日						米：雇用統計 (1月)
2/12 (木)	▲ 1,000	▲ 2,500	▲ 3,500	国債発行 (物連10年)			
2/13 (金)	▲ 2,000	+ 79,000	+ 77,000	年金定時払い 源泉税揚げ			日：田村日銀審議委員、神奈川経済同友会で講演 米：CPI (1月) 欧：ユーロ圏GDP (4Q)

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比2兆5,500億円減少の465兆6,000億円から始まった。その後、法人税・消費税・保険料揚げや国債発行等の要因により減少し、6日は454兆3,900億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.727%から始まり、週半ばに一部金融機関が試し取りを実施したことにより0.730%まで上昇した。週末となる6日は0.728%（速報）となった。

ターム物は1W～3W物0.710%～0.870%のレンジ、1M～3M物0.780%～0.950%のレンジで出合が見られた。

来週の予定は、国内では9日に経常収支（12月）の公表、13日に田村日銀審議委員の講演、海外では11日に米雇用統計（1月）の公表、13日に米CPI（1月）とユーロ圏GDP（4Q）の公表などがある。

〔無担保コールレート〕

	予想レンジ (%)
O/N	0.700 ～ 0.728
1M	0.78 ～ 0.85
2M	0.85 ～ 0.90
3M	0.90 ～ 0.95
6M	1.00 ～ 1.20

＜レボ＞

足許GCは週を通して+0.745%～+0.755%の狭いレンジで取引された。買い入れオペや短国の発行等の影響もほとんど見られず、水準に変化はなかった。

SC取引は2年470～480回債、5年155～183回債、10年356～371、378～380回債、20年110～130回債、30年86～88回債などに引合いが見られた。

〔オープン市場〕

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	0.70%台
CP 3M	0.85 ～ 1.00

＜CP＞

今週の入札発行総額は約9,450億円で、週間償還額の1兆1,345億円を下回った。発行残高は、先週末時点の26兆1,283億円から、2月5日時点で26兆5,174億円へと増加した。発行市場では、鉄鋼・卸売業・その他金融業をはじめとする幅広い業種で、大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは、a-1格相当の1か月物で0.70%台後半から0.90%台、3か月物で0.90%台から1.0%台、と幅広い水準での取引が確認された。

来週の償還額は、約1兆5,410億円となっている。発行市場は、営業日数が少なく、比較的落ち着いたマーケットが見込まれる。発行レートは、1月決定会合での主要意見や、審議委員の講演において、利上げを継続する姿勢が改めて示されていることから、引き続き水準を見極める展開が続くだろう。

＜TDB＞

6日の3M（1360回債）の入札は、最高落札利回り0.7574%（前回債0.7586%）、平均落札利回り0.7486%（前回債0.7516%）となった。

来週の入札は9日に6M、13日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。